

# 地区別防災カルテ 2. 北部地区

地区名：北部地区

地区番号：2

○地震被害想定結果

鎌ヶ谷市直下地震(Mw7.3)のケース  
●原因別建物被害想定

原因	全壊棟数(棟)		半壊棟数(棟)	
	木造	非木造	木造	非木造
地震動(揺れ)	13	1	162	7
地盤の液状化	0	0	0	0
合計	13	1	162	7
急傾斜地崩落	0		0	
総計	14		169	
割合(対地区)	0.5%		5.6%	
市の合計	270		2,340	
割合(対市被害)	5.2%		7.2%	

●ケース別火災被害想定

	冬5時	夏12時	冬18時
焼失棟数(棟)	0	0	5
市の合計(棟)	21	27	583
割合(対市被害)	0.0%	0.1%	0.9%

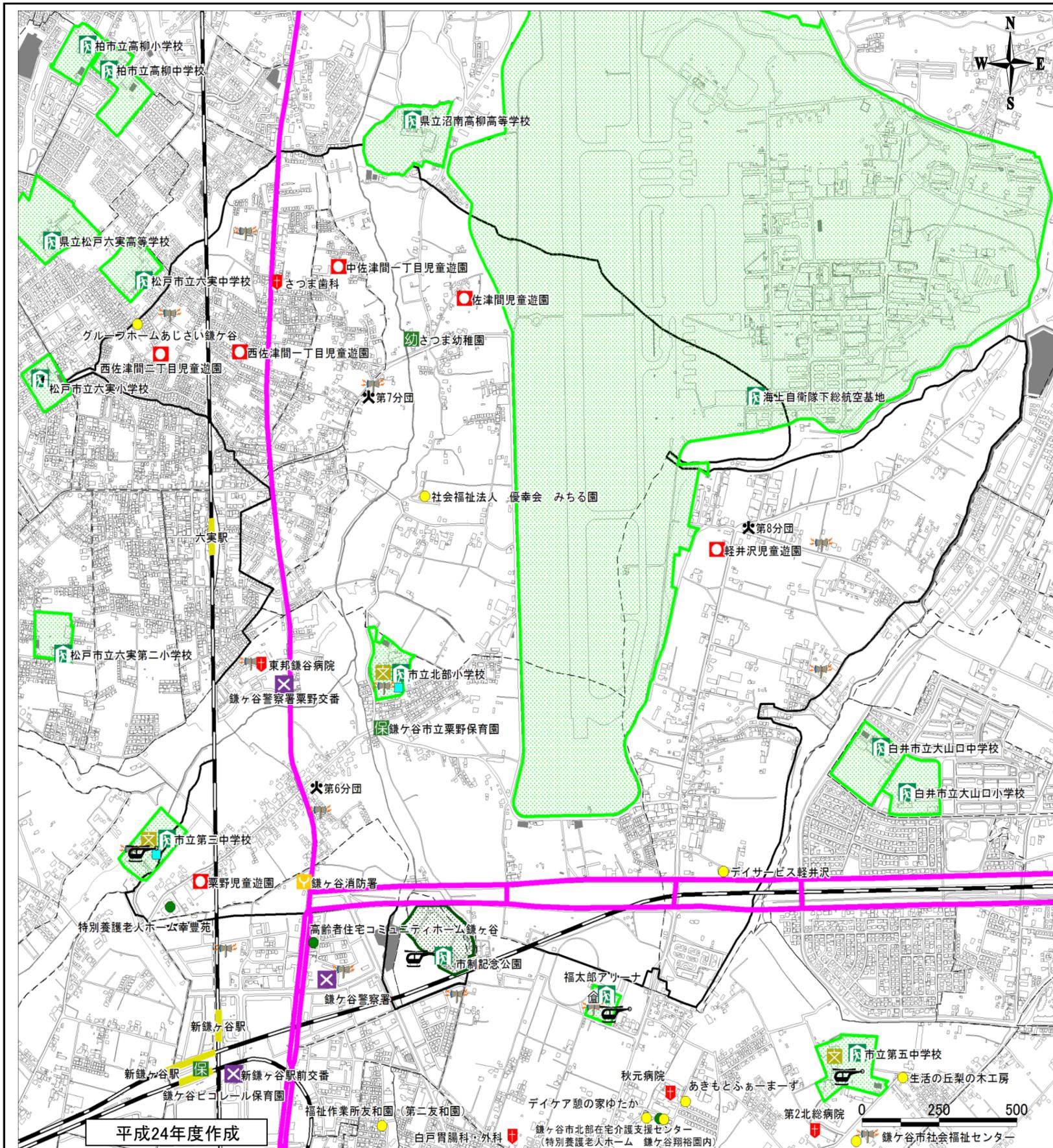
●冬18時(風速6m/s)のケースでの人的被害想定

原因	死者(人)	負傷者(人)	重傷者(人)
建物被害	1	28	1
火災	0	0	0
急傾斜地崩落	0	0	0
ブロック塀等	0	2	1
合計	1	30	2
市の合計	33	417	38
割合(対市被害)	3.0%	7.2%	5.3%

(注:地区毎の集計は小数点以下を四捨五入しているため、市全体の合計と合致しない場合がある。)

○防災上の課題

- 東京湾北部地震の震源が鎌ヶ谷市直下の場合の地震(Mw7.3)の際には、本地区全体に強い揺れを伴い木造建物を中心に被害が予測される。建物の耐震化・室内における強い揺れへの対策、発災時の避難行動や安否確認の方法が重要である。
- 地区全体では液状化の危険性は低い、川沿いで液状化の危険性がやや高い箇所が存在する。
- 地震発生時刻のケース別の火災被害想定では、冬18時のケースで住宅密集地において延焼がやや広がることが予測される。周辺地区も含めた消防力の充実のほか、密集市街地の環境改善も課題となる。
- 河川沿いの谷底低地を中心に浸水が予測され、水害の危険性がある。また、過去5年間(平成20年~平成24年)に川沿いを中心に集中的な大雨の際に、道路冠水や道路封鎖の事例が多く、雨水の地盤への浸透・排水能力の向上が課題となる。



凡例	地区内の数
	2箇所
	1箇所
	1箇所
	8箇所
	1箇所
	0箇所
	1箇所
	3箇所
	1箇所
	2箇所
	1箇所
	1箇所
	1箇所
	3箇所
	1箇所
	6箇所
緊急輸送道路(県指定)	
土砂災害危険箇所(県公表):急傾斜地	
	0箇所
	0箇所
	0箇所

メモ欄(気づいたことをメモしましょう)